

～航空局からのお知らせ～

[2026年9月28日]

★「小さな違和感」を見逃さない（滑走路逸脱事案）

オーストラリア運輸安全局（ATSB）は、2025年5月29日にオーストラリアのレイクエベラ空港で発生した飛行機の滑走路逸脱に関する調査報告書を公表しました。

本事案は、運航会社（マーサカル・ヨルング航空）が運航するセスナ310R型機が当該空港への着陸時に滑走路（全長：1,065m）の中間地点の手前付近で接地し、ブレーキを使用したものの、機体が予想通り減速せず、滑走路を逸脱したというものです。幸いにも乗員乗客は無傷でしたが、フェンスに衝突し機体の左翼を大きく損傷しました。

本事案は複数の要因により発生した事案であり、様々な視点で皆様の運航に参考となる情報でしたので、メールマガジンにて紹介させていただきます。

【本事案の主な要因】

① 不適切な進入・着陸

機体は正常進入（3度の進入パス）より高い位置を飛行するとともに、着陸時の基準速度より約6～7kt速い速度で通過したことに伴い、地面効果により機体が浮いてしまい接地が遅れた。
（通常の接地点から402m先に接地）

② ブレーキ性能の低下

事故後の点検で、右ブレーキリザーバーが空であり、油圧作動油が漏れていた。また、右ブレーキパッドが摩擦限界超過であることが確認された。

③ 整備士の確認不足

ブレーキキャリパーからの液漏れについて、当該機の整備士は、見習い整備士がブレーキパッドを交換しただろうと思い込んでおり、整備後の試運転で、ブレーキが効きにくい（機体が前進する）兆候に気づいたが、「新品パッドの慣らし運転のためだろう」と解釈し、現物確認を行わなかった。

④ コミュニケーション不足

操縦士においてもブレーキが弱いと感じていたが、整備部門に報告をしなかった。

⑤ 初回機長業務のプレッシャー

操縦士は、多発機の機長として初めてのフライトであり、当該空港への飛行が初めてであった。

⑥ 機体重量管理不備

調査の結果、乗客重量と燃料量の入力ミス及び手荷物重量の誤差が見つかり、結果として、最大離陸重量等が超過していた。

【本事案の防止策】

〈操縦士〉

- ・安全進入基準を遵守すること。
(高すぎる進入は修正する、着陸時の基準速度を守る、基準を外れたら迷わず着陸復行)
- ・接地点の明確化
(事前に接地点を決める、そこを超えそうなら着陸復行)
- ・重量計算のダブルチェック
(旅客、荷物、燃料の入力確認を徹底)

〈整備士〉

- ・整備完了確認の強化
(「やったはず」ではなく現物確認、作業者と確認者を明確化)
- ・異常兆候の深掘り
(ブレーキが効きにくい、液漏れを見つけたら、要調査)

本事案は、単一のミスではなく、「高め・速めの進入」「ブレーキ性能の低下」「整備士の確認不足」「コミュニケーション不足」など、複数の要因が重なり発生した事例でした。日々の運航や整備の中で感じた小さな違和感や異常兆候を見過ごさず、確実な確認と報告を行うことが重大事象の防止につながります。

今一度、基本手順の遵守と相互確認の重要性をご認識いただき、安全運航の確保に努めていただきますようお願いいたします。

※メールアドレス変更や配信停止の場合は、お手数ですが本メールに返信する形でご連絡をお願いいたします。

国土交通省 航空局 安全部安全政策課

MAIL : hqt-kogataki@mlit.go.jp

TEL : 03-5253-8111

小型航空機安全対策係 (内線 50135)

特定操縦技能審査担当 (内線 50136)

～X (旧 Twitter) もやっています～ https://twitter.com/mlit_kogataki
